

兵庫県こころのケアセンター 平成23年度実施分に係る  
外部評価委員会 業績評価（総合評価）

所 見

- ・トラウマ・PTSDに関する専門的な相談・診療、教育研修・研究機関としての精力的な活動展開と運営努力を行い、8年目を迎えた平成23年度の活動実績をもたらし、当センターの独自の役割機能に関する全国的な認知の広がりや積極的な活用を好循環を生み出している。社会的なニーズに応じた活動展開の工夫や活動の質の確保、研究成果の公表・共有、情報発信、国内外の災害や事故による被災者と支援者の心のケアの実践・教育・コンサルテーション活動等々、これらを連動させつつ効率的かつ効果的に展開していることは高く評価できる。また、職員がこれらの活動を高いモチベーションをもって行っていることも評価したい。
- ・特に、東日本大震災においては、被災地への支援チームの派遣ならびに継続的なコンサルテーション活動、年間目標の3倍近い10万件弱のアクセス数を得た要因となった「サイコロジカル・ファーストエイド実施の手引き第2版」および「サイコロジカル・リカバリースキル実施の手引き」のホームページ掲載、シンポジウムにおけるパネルディスカッションによる被災地での課題の検討などの精力的な活動を通して、大きな貢献を果たした。
- ・さらに、研修事業に関しては全国各地から目標を大きく上回る申し込みがあり、かつ参加者の高い評価を得ており、ヒューマンケア実践普及講座・音楽療法士養成講座（ヒューマンカレッジ事業）、連携交流事業においても、目標を上回る成果を達成している。相談事業と診療所運営に関しては、専門的な相談・診療活動への社会的認知と要請の高まりに対応できるよう努力工夫を講じており、その成果も認められる。
- ・東日本大震災のような未曾有の災害だけでなく、近年、日本を取り巻く自然環境は非常に厳しく、自然災害は日常的に発生している状況である。また、社会も複雑化し、心に傷を負った人たちも増え続けている。そのような中で、これほど、「こころのケア」が注目され、必要とされている時代はこれまでなかったことであろうし、これからますます重要となっていくものと思われる。
- ・また、大きな災害が起こっても、社会は簡単に被害を忘れていき、災害を過去のことと見なすようになる。センターは、被災者の苦痛が時には何年、何十年と続くことを理解し、専門的な知識技術を提供し得る専門家による支援活動の拠点として重要な役割を担っており、今後ともその役割を継続・拡大していくことが期待される。阪神・淡路大震災はじめ国内外の被災地での支援活動等から得た経験や知見を発信し続けてもらいたい。さらには、センターの経験や知見を具体的な施策の企画・立案につなげてもらいたい。
- ・今後も、センターが果たすべき社会的役割・使命は大きくなっていく中、継続的にこれらの要請に応えるためには、これまでと同様、効率的かつ効果的な事業展開に努めるとともに、様々な広報手段を通じて、センターが行っている活動の価値を国内外にアピールしていくことが必要である。
- ・センターのこれまでの社会への貢献度や今後も果たすべき社会的役割等の大きさを踏まえ、非常に厳しい財政状況の中ではあるが、設置者である兵庫県は人員・予算の確保や予算の柔軟な執行など運用面での特段の配慮を行うべきである。また、県は国に対して研究・研修事業等のセンターの活動に対する経済的支援を求めていくことも必要である。
- ・さらに、東日本大震災被災地への継続的支援、高齢者の孤独死や自殺の問題、DVや子どもの虐待、支援者やボランティアの無力感や二次受傷などの課題が山積しており、国に対して、センターの経験と知見を活かした国レベルの研修・研究事業を立ち上げ、これらの課題に対して支援するシステムを構築することを強く訴えていく必要がある。